

地域・お客さま・従業員と分かち合える豊かな未来を

共創します

2017年3月に、期間10年の長期経営計画「Vision2027『未来共創プラン』」を策定しました。人口減少等の社会環境の変化に打ち克ち、当行グループだけではなく地域やお客さま、従業員と豊かな未来を分かち合うための持続可能なビジネスモデル構築を目指すものです。

期間3年の現中期経営計画は、この長期経営計画のステージⅡにあたります。

STEP ソフト面(組織・人財)強化

- ▶ 前中期経営計画での構造改革(戦略投資、BPR)の成果をもとに、外部環境の変化に迅速に対応するとともに、地域社会とともに発展する【当行独自のビジネスモデル】を構築します。
- ▶ 「人事制度・研修体系・業績表彰制度」などを抜本的に見直すことでソフト面(組織・人財)を強化します。



HOP ハード面強化

- ▶ 徹底した構造改革
- ▶ 営業人員・時間の捻出

212億円
(2017年度実績)

2017年度～2019年度 ステージⅠ

2020年度～2022年度 ステージⅡ

長期経営計画『Vision2027「未来共創プラン」』

KPI

ステークホルダー	KPI	2021年度実績	中計最終年度(2022年度)	
地域社会	SDGsに資する地域課題取組み件数	持続的向上	持続的向上	
	① 創業支援先数 ^{※1} および事業承継支援先数 ^{※2} の合計	133先 (2年間累計)	3年間累計 200先	
お客さま	お客さま満足度 ^{※4} (個人・法人)	金融リテラシー向上等に資する活動 ^{※3}	397件(2年間累計) 7,000名以上の受講	持続的向上
		'20年度法人アンケート満足度74% '21年度個人アンケート満足度65%		持続的向上
従業員	人件費支払前コア業務純益における労働分配率 ^{※5}	49.75%	54%以上	
株主外 (全ステークホルダー)	親会社株主に帰属する当期純利益	183億円	150億円	
	連結総自己資本比率(パーゼルⅢ)	13.83%	12%安定維持	
	連結ROE	3.29%	—	

※1 創業支援先数…当行が開催する創業支援イベント等により、創業した先数
 ※2 事業承継支援先数…事業承継コンサルティングサービス受託先数
 ※3 金融リテラシー向上等に資する活動…金融リテラシー、ビジネススキル等の向上に資する各種イベント・勉強会等の開催件数
 ※4 お客さま満足度…お客さまアンケート「満足」「やや満足」の合計
 ※5 人件費支払前コア業務純益における労働分配率…人件費÷(コア業務純益+人件費)



株式会社 ちゅうぎんフィナンシャルグループ

連結当期純利益
300億円
(2026年度目標)

- ▶ 業務軸の拡大
- ▶ 経営資源の適正配分
- ▶ グループガバナンスの進化

金融を中心とした総合サービス業へ進化

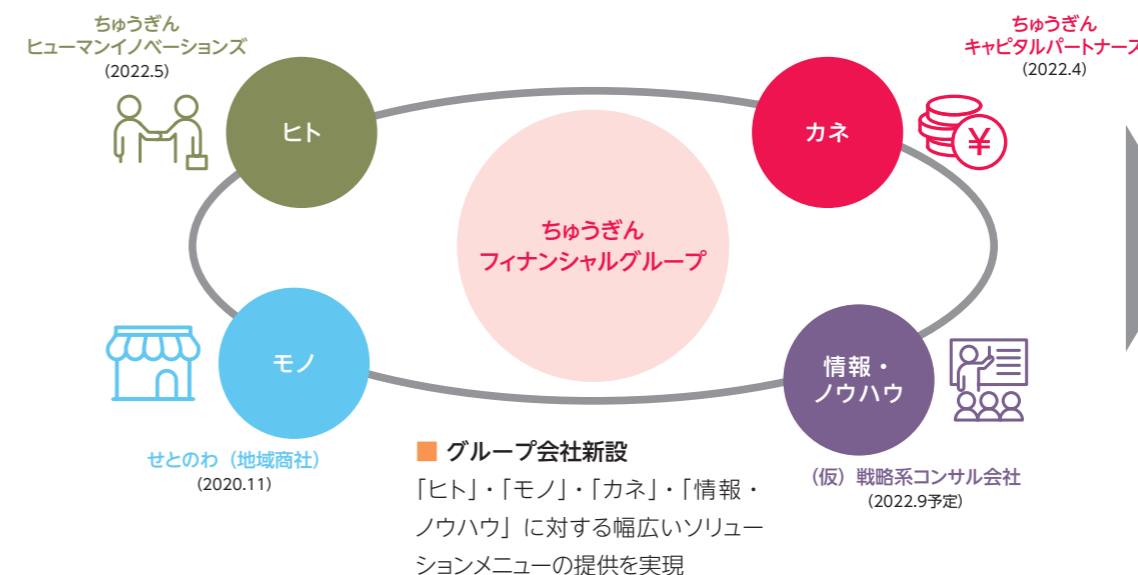
2023年度～2026年度 ステージⅢ

5つの柱の進捗と成果 (サマリー)

	これまでの主な取組み	'21年度の成果	
1	地方創生、SDGsの取組み強化 ● 専担部署、サステナビリティ委員会の設立 ● 地域、お客さまを巻き込んだ地方創生の推進	創業支援先 8 先 (^{'19年度比} +5先)	地公体の取組支援 脱炭素先行地域 (西粟倉村) デジタル田園健康特区 (吉備中央町)
2	お客さま本位の営業の「深化」 ● 地区本部制、自主自標の導入 ● コンサルティング営業の深化、新事業の加速	法人関連収益 119 億円 (^{'19年度比} +29億円)	個人関連収益 73 億円 (^{'19年度比} +8億円)
3	組織の活性化 ● 17年ぶりの人事制度「全面改定」 ● ダイバーシティの推進	新規事業 新設会社3社 (コンサル、人材紹介、投資専門)	
4	デジタル戦略の強化 ● 営業・事務・本部業務のデジタル化の加速 ● 「ちゅうぎんアプリ」のリリース	新人事制度 活躍フィールドの拡大/自律と挑戦の風土醸成 (社内ベンチャー、専門職の新設、キャリアパスの制限撤廃など)	
5	持続可能な成長モデルの確立 ● 経費コントロール、店舗再編、人員再配置など	ちゅうぎんアプリ 7 万先 (9カ月累計)	
		OHR 64.7 % (^{'19年度比} △7.5pt)	

地域のプラットフォーマーに向けた取組み

主要施策「5つの柱」のもと、地域連携の要となって「共創の場(プラットフォーム)」を目指します。



次期中期経営計画に向けて、さらに取組みを加速

地域へ新たな価値を創出し続けられる組織へ